

Title	夏・夕涼みの季節
Author(s)	敷田, 麻実
Citation	Wildlife Forum, 14(2)
Issue Date	2009-08-10
Type	Article
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/16975
Rights	Copyright (C) 2009 「野生生物と社会」学会. 敷田麻実, Wildlife Forum, 14(2), 2009, DOI: 10.20798/wildlifeforum.14.2_i. http://dx.doi.org/10.20798/wildlifeforum.14.2_i
Description	



文と写真 敷田 麻実（野生生物保護学会会長）

「夏・夕涼みの季節」

今年も夏がやってきた。暑さが苦手ではない人でさえ、近年の酷暑には閉口しているに違いない。真上から照りつける太陽が乾いた地面を焦がす昼さがり、うだるような暑さの中でのどを潤す冷たい水に、人は夏を記憶する。

「夏」は、暑さとともに、夏休みの郷愁をもたらす言葉だ。大人になっても、なんとなく夏休みという言葉に胸がときめくのは、子供の頃の思い出だろうか。

仕事も新学期も、春に始まることばかりの日本では、春からの緊張から解放されるのが夏である。人は、春から息を詰めるように仕事を続けた自分をひと休みさせる。学生も新学期から続いた緊張がとれ、「何もすることがない時間」を持つことができる。

暑い夏をゆつくり過ごせることは、この世知辛い時代には大切なことだ。夏の暑さは、私たちを「勤勉」から「怠惰」へ、心の回復に振り向けさせる格好の薬なのだ。

冷房の効いた涼しい室内で勤勉を続けるより、けだるい昼下がりの空気に身をさらしてみよう。暑さが和らぐ夕方まで、怠惰に浴する時間はたっぷりある。

